

## 「日本の祭り、年中行事および文化」 教案

### 〔前回の復習〕

### 〔今回の授業のねらい〕

祭りや行事を通じて日本の習慣や食文化に触れてほしい。学生に自分の国の祭りや行事を紹介してもらうことにより、国際文化交流の場にもなる。

### 〔解説と授業の展開〕

大きく二つに分ける：民間信仰を交えた伝統的な祭りと国民、地域住民のすべてが参加する記念・祝賀の行事

#### 1. 近寄る祭り、行事

##### ● 年末：天皇誕生日、クリスマス、大晦日

###### ■ 12月23日：天皇誕生日

△ 平成元年（1989年）今の天皇の誕生日で決まる。→日本の年号

△ 当日、皇居で各省大臣や各国大臣を招く宴会。→各省庁と中国の各部

###### ■ 12月25日：クリスマス

△ クリスマス・イブがもっと賑やか。→家族や恋人にプレゼント

△ 子供はサンタのプレゼントを期待。（6～8才まで？）

△ 11月後半からはクリスマス・セールも

\* あなたの国では？

###### ■ 12月31日：大晦日（おおみそか）

△ 除夜→人間には108煩惱があり、それを取り除くため全国の寺では鐘を108回鳴らす。→人々は、その音を聞きながら健康や長寿を願って、年越しそばを食べる。

\* あなたの国では？

##### ● 年始：お正月、成人式

###### ■ 1月1日：お正月（元旦）

△ 日本人には最も大事な行事。→初詣→おせち料理→しめ飾り→門松

###### ■ 1月第2月曜：成人の日

△ 国民の祝日の一つ→1948年に制定→20歳→選挙権→飲酒や喫煙

\* あなたの国では？

#### 2. 年中行事（主な行事）

##### ■ 2月11日（1967年）の建国記念日→初代天皇の誕生日

##### ■ 3月、4月の花見→桜の花→桜前線

##### ■ 3月3日のひな祭り（女の子）5月5日も子供の日

##### ■ 4月29日から5月5日までのゴールデンウィーク（緑の日、憲法記念日、子供の日）前後1週間から10日ほど休む

##### ■ 7月7日の七夕（たなばた）→アルタイル（牽牛星）ベガ（織女星）

##### ■ 8月中旬のお盆休み→月を観賞→盆踊り→15日前後1週間ほど休む。

##### ■ 11月15日の七五三→子供の成長を祈る→男は3歳か5歳、女は3・7歳→

鶴や亀の描かれた袋に入った紅白の長い飴が買い与えられる→亀鶴長寿の象徴

\*あなたの国では？

[授業のまとめ]

[参考文献]

・インターネットから検索

[レジュメ]

添付

[配布プリント]

「日本の祭り、年中行事及び文化」

## 「日本の祭り、年中行事および文化」レジュメ

### 〔前回の復習〕

### 〔本日の授業内容〕

1. 近寄る祭り、行事
  - ・ 天皇誕生日
  - ・ クリスマス
  - ・ 大晦日
  - ・ お正月
  - ・ 成人式
  
2. 年中行事（主な行事）
  - ・ カレンダーで見つける法定休日
  - ・ 地域を巡るまつり
  
3. あなたの国では？（学生に自分の国の祭りを2、3言わせる）

### 〔授業のまとめ〕



年末ークリスマス

Christmas・Xmas 12月25日  
同義語・ Noel・降誕祭(こうたんさい)・聖誕祭(せいたんさい)

キリスト教徒の国では一般に「イエス・キリスト」の誕生をお祝いする日。日本ではクリスマスは恋人や友達と過ごし、お正月は家族と過ごすことが多いのに対して、欧米では反対にクリスマスは家族で過ごし、お正月は友達や恋人と過ごすことが多い。

【クリスマスイブはとても賑やかに】  
日本のクリスマスは、一般に家族・恋人向けに、様々な催し物が行われる。11月末頃から、街はクリスマスカラーである赤・緑・白などの色とりどりの装飾品で飾り始められる。

【450年前に伝来】  
フランシスコ・ザビエルとともに450年前に伝来し、明治後期にはキリスト教徒の行事という枠を超えて、日本文化となっていた。明治時代にクリスマスの商業宣伝が始まり、初期のプレゼントの定番は「歯磨粉」だった。

戦後、サンタクロースをヒントに「子供福袋」が登場し、この習慣は、次第に修正され、子供たちはクリスマスを「サンタが子供におもちゃをくれる日」と理解するようになる。戦後、GHQは、クリスマスにサンタの格好でキャンディを配ったり、パラシュートで空から舞い降りてくるなどイベントを開き人々に笑顔を与えた。物資の乏しかった時代、「愛を贈る日」として広がった。その後、日本の経済が上向きになり商業化をし始めた。



年末ー大晦日

< 掲示資料 (例) >

1年の最後の日を「大晦日[おおみそか]」または「大晦[おつごもり]」とも呼ぶ。「1年の最後の特別な末日」を表すため、末日を表す2つの言葉のそれぞれ「大」を付けて「大晦日」「大晦」と言う。

【家族揃って新年を迎える】  
12月31日「大晦日」には1年の間に受けた罪や穢れ[けがれ]を祓うために、大祓い[おおはらい]が宮中や全国の神社で執り行われる。年越しの夜は除夜[じよや]ともいう。かつて、除夜は歳神様を迎えるため一晩中起きている習わしがあり、この夜に早く寝ると白髪になる、シワが寄るなどの俗信があった。



■年越しそば

年越しそばは江戸時代から食べられていた。金箔職人が飛び散った金箔を集めるのに蕎麦粉を使ったことから、年越し蕎麦を残すと翌年金運に恵まれれないと言われている。



■除夜の鐘

大晦日の夜ふけに、全国のお寺で鳴らされる108つの鐘を「除夜の鐘」という。108とは仏教思想に基づく百八煩惱を意味する。煩惱とは「心を惑わし、身を悩ませる」ものを言い、鐘をつくことでこれらの煩惱を一つ一つ取り除いて、清らかな心で正月を迎える。108回の最後の1回は年が明けてから突きます。これは、今年1年煩惱に惑わされないように、という意味が込められている。

年末—お正月

読み方:しょうがつ  
 同義語:新春・年明け・初春・春・陽春・歳旦・年初・年初・年頭・1月・睦月  
 関連語:元日・鏡開き・かまくら・大晦日・振袖・お雑煮・おせち・餅

正月とは本来、その年の豊穰(ほうじょう)を司る歳神様(としがみさま)をお迎えする行事であり、1月の別名。現在は、1月1日から1月3日までを三が日、1月7日までを松の内、あるいは松七日と呼び、この期間を「正月」と言う。

【最古の年中行事】

正月は、日本の行事の中で最も古くから存在すると言われている。「お盆」の半年後にやってくる正月は、本来お盆と同じく「先祖をお祀りする行事」。しかし、仏教が浸透しその影響が強くなるにつれて、お盆は仏教行事の盂蘭盆会(うらぼんえ)と融合して先祖供養の行事となり、正月は歳神を迎えてその年の豊作を祈る「神祭り」としてはっきり区別されるようになった。  
 また、現在のようなお正月の行事(門松やしめ飾り、鏡餅などを飾ること)が浸透したのは、江戸時代に入り庶民にも手軽に物品が手に入るようになってから。

【霊に対する祝福の言葉】

1年の始めである正月は春の始まり、すなわち「立春」とも考えられており、人々は春の訪れがもたらす生命の誕生を心から喜んだ。「めでたい(芽出度い)」という言葉は「新しい春を迎え芽が出る」という意味がある。また新年に言う「明けましておめでとうございます」という言葉は、実は年が明け歳神様を迎える際の祝福の言葉だった。

年末—お正月

【歳神様を迎える日】

正月は家に歳神様をお迎えし、祝う行事。歳神とは1年の初めにやってきて、その年の作物が豊かに実るように、また、家族みんなが元気で暮らせる約束をしてくれる神様。正月に門松(かどまつ)やしめ飾り、鏡餅を飾ったりするのは、すべて歳神様を心から歓迎するため。  
 祖先は人間が死ぬとその魂はこの世とは別の世界に行き、ある一定の期間が過ぎると個人の区別が無くなり「祖霊」という大きな集団、いわゆる「ご先祖様」になると信じられていた。

■門松の由来

お正月は本来、年神を迎えその年の豊作を祈る「神祭り」とされるもので、門松は古くは年神を家に迎え入れるための依代(よりしろ)とし神霊がおりてくる目標物と考えられ、玄関前などに飾る風習ができたといわれている。  
 松は「待つ」にもつながり、竹は冬でも色濃くまっすぐに伸びる節があるので、門松にはけじめの意も込められている。

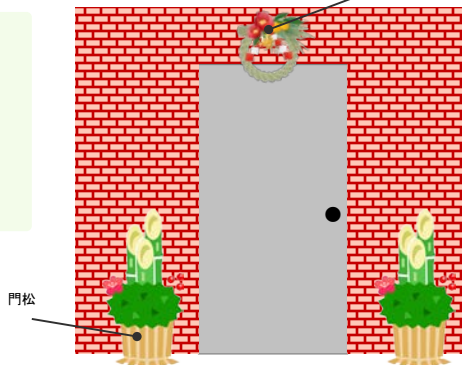
■門松の飾り方

正式な正月用門松は、松を中心にすえ3本または5本、7本の葉つきの竹を添え、すそに松の割り藁を並べ縄で3カ所を三巻き、五巻き、七巻きと節目を見せて七五三に結んだ形が正式。

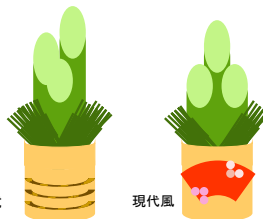
最近ではデザインや置き場所を重視しアレンジされたものも多い。

■お正月 玄関飾り

しめ飾り < 掲示資料 (例) >



門松

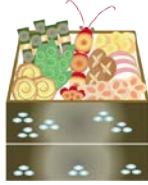


正式

現代風

## 年末—お正月（食べ物）

&lt; 揭示資料（例） &gt;



## ■おせち料理

正月に食べるお祝いの料理。「おせち」とは本来、暦上の節句のことを指す。おせち料理は“めでたさを重ねる”という意味で縁起をかつぎ、重箱に詰めて出される。おせちとはお節供【おせちく】の略で、年の始めにその年の豊作を祈って食べる料理や武家の祝い膳、新年を祝う庶民の料理などが混ざり合っただけ出来たもの。お正月に火を使うことをできるだけ避ける、という物忌みの意味も含んでいる。



## ■お雑煮

一年の無事を祈りお正月に食べる日本料理。沖縄を除く日本各地でお雑煮を食べる風習がある。餅の形やだし、具の種類にいたるまで、地方や家庭ごとに千差万別。餅は昔から日本人にとってお祝い事や特別の日に食べる「ハレ」の食べ物。そのため新年を迎えるにあたり、餅をついて他の産物とともに歳神様にお供えをした。そして元日にそのお供えをお下がりとして頂くのがお雑煮。お雑煮を食べる際には旧年の収穫や無事に感謝し、新年の豊作や家内安全を祈る。



## ■鏡餅

1月11日は「鏡開きの日」。今年1年の一家円満を願いながら、神様に供えるのが鏡餅。鏡餅は、大小の丸い餅を重ねて出来ており、橙【だいだい】、譲葉【ゆずりは】、昆布、裏白の葉などで飾られる。お餅は歳神様のご神体であると考えられ、餅は“望月【もちづき】(満月)”に通じ、その丸い形から家庭円満を象徴するとも考えられ、縁起物としてお正月に飾られるようになった。鏡開きの日には、飾っておいて硬くなったお餅をかなづちなどで叩き「開く」。鏡餅には歳神様が宿っているので、神様とも縁を切らないよう「割る」などとは言わず「開く」という。